# 第３領域「発達理解の理論と実践」

中島　伸子

本共通必修科目は、乳幼児期から児童期前期（4/27,6/1,7/27）、児童期（6/29）、思春期（8/24）と発達時期ごとに内容を分割して実施した。授業者は中島、吉澤、横山、松井であった。到達目標は、①体験的活動や生活場面における子どもの世界認識の諸側面と発達過程について説明できる、②体験的活動や生活場面における子どもの姿から、子どもの世界認識のありようを理解できる、③子どもの世界認識を理解し、発達を促すための生徒指導や学習指導に生かす方策を考案できる、であった。

**１．　授業概要**

主体的・対話的な学びを促進しうる種々の手法を授業に取り入れると共に、これらの手法の実施法と効果について解説した。

**１）　乳幼児期～児童期前期（世界認識と学びに向かう力）**：学びの土台となる世界認識および学びに向かう力、それらを発揮する子どもの姿、発達を促す支援とはいかなるものかを探究課題とし、発達心理学からの解説、ゲストティーチャーからの実践報告、集団討議を踏まえ、各自の学びをまとめる作業を行った。

**２）　児童期（仕事理解の発達）**：教育実践をキャリア教育・発達という視点から捉える方法を体験的に理解することを目的とした。キャリア教育論からの解説を行ったうえで、特定連携協力校の社会科授業を参観し、重要だと考えられる指導上の配慮や子どもの姿について集団討議を経てまとめる作業を実施した。

**３）　思春期（不適応児の世界認識の発達）**：自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、愛着形成不全を抱えた子どもの特徴、望ましい関わり方はいかなるものかを探究課題とし、精神医学的立場からのゲストティーチャーによる最新情報の提供、学校現場での仮想事例の検討、集団討議を踏まえ、各自の学びをまとめる作業を行った。

**２．次年度に向けて：授業改善のための検討の視点**

１）～３）の内容間の関連について、俯瞰的視点から考えを深める機会が欠けていた。ガイダンスや振り返りの仕方を工夫することでこの点の改善を図る。